

22PO-am387

薬局薬剤師が主体的に学び続けるために～学習意欲に関する志向性から～

○盛岡 正博^{1,2}, 竹平 理恵子¹, 小倉 未来¹, 有田 悦子¹ (¹北里大薬, ²なの花東日本)

【目的】社会情勢の変化により、薬局に求められる機能が拡大してきた。社会のニーズに応えるため、薬局薬剤師には様々な研修プログラムが提供されている。しかし、教育者側が薬剤師の学習意欲を促進させるために学習環境を整えても、必ずしも活用されているとは言えない。本研究では、薬局薬剤師の学習意欲の傾向を分析し、教育者側がどのような施策を講じるべきか検討を行った。

【方法】薬局に勤務する 30～59 歳の 4 年制卒の薬剤師 145 名を対象にアンケート調査を行った。学習意欲に関する 6 志向（充実志向、訓練志向、実用志向、関係志向、自尊志向、報酬志向）の設問について、「5：良くあてはまる」から「1：ほとんどあてはまらない」の 5 段階のリッカート尺度で回答を得た。各志向の関係性は、ピアソンの積率相関係数により検討した。有意水準は 5% とした。

【結果】充実志向の点数が最も高く、4.17 であった。次いで、実用志向、訓練志向、自尊志向、報酬志向、関係志向の順であった。充実志向は訓練志向と実用志向とやや強い相関があり、相関係数はそれぞれ 0.585、0.550 であった。訓練志向と実用志向にも、やや強い相関があり、相関係数は 0.645 であった。

【考察】充実志向の点数が最も高かったことから、薬剤師は新しい知見を得て学習時間を充実させたいという姿勢が強いことが示唆された。充実志向、訓練志向、実用志向に正の相関が見られたことから、充実した学習の中で、薬剤師としての思考力を鍛え薬局業務に応用できるものを求めている傾向がうかがえた。以上より、研修会等を開催する際は、学習者の知的好奇心を刺激するような内容を提供するとともに、ロールプレイ等の主体的に参加できかつ実践的な研修となるような方略の選択も重視する必要がある。